タイトル:『汐製菓会社の新作 62 マフィン 2』

登場人物

- **汐（しお）**（30 代）
  汐製菓会社の社長。奇想天外な発想と「面白きことも無き世を面白く」をモットーに、日々斬新なお菓子を考案する快活な性格。常にポジティブで楽観的。
- **塩田（しおだ）**（30 代）
  汐の秘書であり、会社のブレーキ役。真面目で几帳面、そして心配性だが、実は大のスイーツ好き。汐の突飛な発想に振り回されながらも、彼の信念に共感し、会社で働いている。
- **社員 A/B/C/D**
  汐製菓の社員たち。社長のアイデアに振り回されながらも、新しい挑戦を見守っている。感情豊か。

- **国内外のお客さん**
  日本人や外国人のバイヤー、試食に参加する人たち。

第一幕：汐の閃き

場面：汐製菓本社の社長室。
汐がデスクに座って深く考え込み、何かを思いついたかのように顔を上げる。塩田は隅で仕事に没頭している。

汐：（急に立ち上がり）「よし！決まったぞ！次の新商品は…マフィンだ！」

塩田：（書類から顔を上げて、驚きながら）「…マフィンですか？」

汐：「そう、ただのマフィンじゃない。“小倉あんマフィン”だ！」

塩田：（戸惑いながら）「小倉あん…？マフィンとあんこですか？それはちょっと…おかしい気がしますけど…」

汐：「それがいいんだよ！新しいものを作らなきゃダメだろう？誰もが予想しない組み合わせこそがウケるんだ！」

塩田：（心配そうに）「でも、海外のバイヤーにはあんこが馴染みが無いし…その、受け入れられるかどうか…」

汐：（興奮して）「塩田！お菓子の世界に限界なんて無い！挑戦しなきゃ、何も始まらないんだよ！」

塩田：（深いため息をつき）「わかりました。とりあえず、試作を始めましょう。試食してみないと何とも言えませんから…」

汐：「その意気だ！さあ、さっそく試作チームに連絡だ！」

（電話を取り、指示を出す）「おい、次の新作、マフィン作ってくれ！あんこ入りだ！」

塩田：（小声で）「また無茶な注文を…」

第２幕：試作の日々

場面：試作室。

スタッフたちが忙しそうに材料を準備している。汐と塩田が試作された「小倉あんマフィン」を前に座っている。

汐：（試作されたマフィンを一口食べて）「おお！これは…！」

（しばらく沈黙）「なんて斬新な味だ！この不思議な甘さ、絶対ヒットする！」

塩田：（試食しながら）「うーん…確かにおいしいけど、何か足りないような気がします。甘すぎて…」

汐：「何かが足りない、か…。よし、塩田、君のアイデアを聞かせてくれ。」

塩田：（少し考えて）「抹茶を少し加えたらどうでしょう？あんこの甘みと抹茶の苦みが絶妙に調和して…もっと大人っぽい味になるかもしれません。」

汐：（目を輝かせて）「それだ！塩田、さすがだ！やっぱり君の意見は的確だよ！」

（スタッフに向かって）「抹茶を少し加えたバージョンも作ってくれ！」

スタッフA：（困惑しながら）「あんこに抹茶…？まあ、社長の命令だからやるけど…」

塩田：（心配そうに）「社長、あんまり無理を言わないでくださいね…」

第3幕：社内プレゼンテーション

場面：社内会議室。社員たちが座っており、テーブルの上には試作された「小倉あんマフィン」が並んでいる。汐が前に立って、プレゼンテーションを始める。

汐：「みんな！今日は新作マフィンのプレゼンだ。題して、“小倉あんマフィン”。これで和と洋の融合だ！」

社員A：（小声で）「また奇抜なアイデアだな…」

社員B：（隣に耳打ちしながら）「でも社長のアイデア、いつも意外と当たるんだよな。」

汐：「さあ、まずは食べてみてくれ！」

（社員たちに向かって）「恐れずに挑戦しよう！新しい味に飛び込むんだ！」

社員たちが恐る恐るマフィンを一口食べる。

次第に彼らの顔が驚きと共にほころんでいく。

社員C:「えっ、これ…おいしい！」

社員D:「最初はどうかと思ったけど、これはアリだな！」

塩田:（ほっとして微笑む）「よかった…これなら大丈夫そうですね。」

汐:（自信満々に）「どうだ、みんな！これが未来の味だ！新しい市場を開拓するぞ！」

社員A:「社長、これ、国内だけじゃなく、海外でもウケるんじゃないですか？」

汐:「その通り！だから次は、国際食品博覧会で発表する！世界中にこのマフィンを広めるんだ！」

塩田:（驚きつつ）「ええっ！？急すぎます！準備が…！」

第4幕: 国際食品博覧会での挑戦

場面：国際食品博覧会。汐製菓のブースには「小倉あんマフィン」の大きな看板が掲げられている。外国人のバイヤーたちが興味深そうにブースを訪れる。

汐：「さあ、世界にこのマフィンをアピールするぞ！」

塩田：（小声で）「うまくいくといいんですけど…」

外国人のバイヤーがブースに近づいてくる。

外国人バイヤー1：「これは何ですか？アンコって何です？」

汐：（自信満々に）「これは小倉あんマフィンです！アンコは日本の甘い小豆のペーストで、非常に人気があります！」

外国人バイヤー1：「小豆のペーストをマフィンに入れる？それって…ちょっと変わってますね。」

塩田：（焦って）「あんこはちょっと説明が難しいですよね…」

汐：「大丈夫！食べてもらえばわかるさ。さあ、試食をどうぞ！」

バイヤーたちが試食を始める。最初は戸惑っていた彼らの表情が変わる。

外国人バイヤー2：「これは…意外においしい！」

外国人バイヤー3：「独特な味ですね！気に入りました！」

塩田：（驚いて）「本当に受け入れられてる…？」

汐：（大笑いしながら）「ほら見たか！世界にも通用するんだ、このマフィンは！」

外国人バイヤー1：「100箱注文します、うちの店に！」

塩田：（信じられない様子で）「100箱！？本当に！？」

汐：（満足げに）「さあ、これで世界に進出だ。塩田、もう心配いらないだろ？」

塩田：（微笑んで）「はい、社長。今回だけは、私も誇りに思います。」

第5幕：大成功の味

場面：汐製菓本社。テレビで「小倉あんマフィン」が話題になり、売れ行きが絶好調であることが報道されている。

ニュースキャスター：「今話題の小倉あんマフィン、国内外で大ヒット中です。日本と海外の消費者の心を掴んだ、新感覚の味です！」

汐：（テレビを見て）「やったな！塩田、俺たちのアイデアが世界に認められたぞ！」

塩田：（ほっとして）「ええ、今回は大成功ですね。これで次の新作も考えられます…」

汐：「もちろん！さあ、次は何に挑戦しようか…！お、今度はさくらんぼ入りマフィンとか？」

塩田：「もう少し落ち着いてください、社長…」

（微笑みながら、汐の次の無茶ぶりを想像して苦笑い）

【終わり】